

北九州市障害者支援計画進捗状況管理表

基本目標 Ⅲ 人権の尊重と共生社会の推進

参考資料 1

分野7. 生活環境の整備（障害に配慮したまちづくり）

(1) 「住まい・住環境の整備」

事業番号	事業名	事業概要	平成28年度の実施状況	平成29年度の取組予定	数値目標	数値目標達成状況及び現状分析、今後の課題	他の分野別計画との関連性	所管課
65	市営住宅定期募集における住宅困窮者募集制度	住宅困窮度の高い高齢者や障害のある人の生活基盤の安定を図るため、入居者募集の際、一般募集とは別枠を設け、住宅困窮度の高い障害のある人等を対象に、優先入居を実施します。	平成28年度の定期募集において、障害者向け応募枠として263戸の市営住宅を確保しました。応募倍率は一般空き家募集6.5倍に対して、住宅困窮者募集（障害者枠）は1.1倍でした。	今後とも障害者が入居しやすいよう年4回（平成29年6月、8月、10月、平成30年2月）の定期募集において、応募戸数を確保していきます。	---	入居者募集においては、一般世帯とのバランスを見ながら、より住宅に困窮する世帯（高齢者、障害者、母子・父子、多子）に配慮した募集を実施していく必要があります。		建築都市局 住宅管理課
66	民間住宅への「すこやか住宅」の普及促進及び「すこやか住宅」の改造助成	【障害福祉企画課】 障害のある人等の自立支援や家族等介護者の負担を軽減するため、重度障害のある人等がいる世帯に対し、住宅を改良するための経費の一部を助成します。 【住宅計画課】 「すこやか住宅」の普及を促進するため、相談体制の充実を図るとともに、市民向けセミナーの開催、情報誌の発行などを行います。	・ 助成件数：13件 ・ 関連事業者等向け研修会の開催 年7回実施、参加者延べ1,068人 ・ 市民向けセミナーの開催 開催回数 3回 参加者延べ 75人 ・ 情報誌の発行：年1回発行 ・ 事例集の発行：年1回発行	(障害福祉企画課) 制度の周知を図り、助成件数の増加に務めます。 【住宅計画課】 ・ 関連事業者等向け研修会の開催 ：年7回 ・ 市民向けセミナーの開催 ：年3回 ・ 情報誌の発行 ：年1回 ・ 広報・啓発パンフレットの発行 ：年1回	---	今後も制度の周知と助成件数の増加を図る必要があります。	「元気発進！子どもプラン」	保健福祉局 障害福祉企画課 建築都市局 住宅計画課
68	粗大ごみ持ち出しサービス事業	高齢者、妊産婦、障害のある人、傷病者、年少者のみで構成された世帯を対象に、収集作業員が屋内などから粗大ごみの持ち出しを行います。	受付件数：2,159件（内障害者分：85件）	継続実施	---	今後も継続して実施する必要があります。		環境局業務課
69	居住サポート事業	保証人がいない等の理由により一般賃貸住宅（市営住宅を含む）を借りることが困難な障害のある人に対し、住宅に関わる相談に応じ、入居契約の支援や民間の家賃保障事業者による連帯保証を行います。	入居支援として、不動産業者に対する物件斡旋依頼、家主等との入居契約手続きの支援、市と協定を締結した家賃保証事業者の斡旋、及び保証委託契約についての支援を実施しました。相談者数：367人（延べ相談件数：1,643件）	引き続き、よろず相談窓口である障害者基幹相談支援センターとの一体運営である強みを活かし、居住に関する相談に限らず幅広い支援を行います。また、病院や相談支援事業所と連携し、相談者の地域移行を支援します。	---	受け入れ先である不動産物件の開拓や、施設、病院から地域への移行を支援する相談支援事業所との連携を深める必要があります。		保健福祉局 障害者支援課

北九州市障害者支援計画進捗状況管理表

基本目標 Ⅲ 人権の尊重と共生社会の推進

参考資料 1

分野7. 生活環境の整備（障害に配慮したまちづくり）

(2) 「移動しやすい環境の整備等」

事業番号	事業名	事業概要	平成28年度の実施状況	平成29年度の取組予定	数値目標	数値目標達成状況及び現状分析、今後の課題	他の分野別計画との関連性	所管課
82	重度障害者タクシー乗車運賃助成事業	市内に住所を有し、かつ、市民税非課税世帯で、①身体障害者手帳が1級又は2級の人（視覚障害、内部機能障害、肢体不自由の下肢・体幹・移動機能障害）、②療育手帳がAの人、③精神障害者保健福祉手帳が1級の人（ただし、いずれも施設入所者は除く）に対し、タクシーの初乗運賃相当額を月4回（年間48回）まで助成します。	利用券交付者数 4,929人	引き続き適正利用の徹底を図りながら継続実施します	---	制度の周知に努めるとともに、適正な利用の徹底を図る必要があります	元気発進！子どもプラン	保健福祉局 障害福祉企画課
119	低床バスの導入促進（※旧：超低床式バスの導入促進）	高齢者や障害のある人等が路線バスを利用する際の利便性及び安全性の向上のため、市営バスにノンステップバスやワンステップバスの導入を進めていくとともに、民間バスについてもノンステップバスの導入を促進していきます。	【都市交通政策課】 民間バス事業者 ノンステップバスの導入 民間バス事業者へ13台分助成 【営業推進課】 市営バス 大型ノンステップバスの導入 1台（H28年3月）	【都市交通政策課】 ノンステップバスの導入促進 【営業推進課】 市営バス 大型ノンステップバスの導入 1台（H29年3月予定）	---	【都市交通政策課】 ノンステップバスの導入促進は交通事業者の経営状況に拠るところが大きく、また、道路・地形的要因（傾斜や幅員）によって運行できる路線が限定されます。 【営業推進課】 老朽化したバス車両（貸切バスを含む）を、収支状況も勘案しながら計画的に更新します。 バス車両の更新においては、高齢者や障害者でも乗降しやすい低床車両のノンステップバスの導入を行うとともに、バリアフリー新法に対応した車両の導入を行います。		建築都市局 都市交通政策課 交通局営業推進課
142	リフトバス運行事業	障害のある人の活動・外出を支援し、社会参加を促進するため、概ね10人以上の障害のある人のグループが行う研修やレクリエーション等の活動に対し、リフトバスの運行を行います。	延利用者数 4,309人 (H29.3月末現在)	継続してリフトバスを運行し、障害のある人の外出支援、社会参加を促進します。	---	事前予約のあり方について検討していく必要があります。（市主催行事又は利用団体に一般の貸切バスが利用困難な車椅子利用者が多数いる場合に一般予約に先んじて予約を受け付けています。H29年度事前予約状況：延46団体）		保健福祉局 障害者支援課
143	福祉有償運送運営協議会	北九州市福祉有償運送運営協議会を設置し、福祉有償運送登録団体の事業運営状況の確認や運送業界と福祉団体による適正運営のための協議などをおこないます。	平成28年度は、2回の運営協議会を実施しました。	平成29年度もこれまでと同様、運営協議会を開催（年3回予定）し、実施団体の運営状況を把握する。	---	福祉有償運送制度は、道路運送法に基づき、協議会において運営状況の把握と運送業界と福祉団体間の合意形成を必要とされているため、協議会で適切な協議ができるよう、各登録団体の実施状況を正しく把握しておく必要があります。		保健福祉局 地域福祉推進課
144	身体障害者用自動車改造費助成事業【拡充】	上肢、下肢又は体幹機能に障害のある人で、就業等のため自ら所有する自動車の一部を改造する必要がある場合に、操行装置及び駆動装置等の改造に要する経費を助成します。	助成件数 18件 (H29.3月末現在)	広報活動を通じて、制度の周知を図り、助成件数の増加に努めます。	助成件数 平成26年度 34件 平成29年度 26件	年度により助成件数に変動がありますが、助成件数は概ね見込みどおりで推移しています。		保健福祉局 障害者支援課

北九州市障害者支援計画進捗状況管理表

基本目標 Ⅲ 人権の尊重と共生社会の推進

参考資料 1

分野7. 生活環境の整備（障害に配慮したまちづくり）

148	ふくおか・まごころ駐車場推進事業【新規】	福岡県が、身体障害者用駐車区画について、県内に共通する「ふくおか・まごころ駐車場」利用証を交付し、利用できる者を明確にすることにより、利用対象外駐車を防止するとともに、商業店舗や公共施設等と協定を締結し、駐車区画の適正利用を図ります。	平成28年度は、3,377枚の新規利用証を発行。また、平成28年8月現在、全国36府県市で相互利用が可能となっています。 【本市の同制度登録施設数】 公共施設：267箇所 民間施設：187箇所	引き続き制度を維持するとともに、市政だよりなど、広報の機会をとらえて制度の普及と障害者用駐車区画の適正利用の呼びかけを行います。	---	福岡県と連携し、協力施設（駐車場）を増やし、より利用しやすい制度にするとともに、不適正利用が見られることから、障害者差別解消法の普及啓発と併せ、適正利用の呼びかけを実施する必要があります。		保健福祉局 障害福祉企画課
149	福祉優待乗車証の発行	身体障害者手帳（1～4級）、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、戦傷病者手帳のいずれかを持つ北九州市民に対して、北九州市営バスの運賃が無料となる福祉優待乗車証を発行します。	福祉優待乗車証発行枚数 5,666枚	継続実施	---	市営バス全路線で無料で利用可能な福祉優待乗車証を発行し、障害者等の外出の機会を確保するなど、本市の障害者福祉施策に貢献します。また、制度を継続するため、関係部局も含め、様々な角度から検討を行います。	第2次北九州市営バス事業経営計画	交通局 総務経営課

北九州市障害者支援計画進捗状況管理表

基本目標 Ⅲ 人権の尊重と共生社会の推進

参考資料 1

分野7. 生活環境の整備（障害に配慮したまちづくり）

(3) 「アクセシビリティに配慮した施設、製品等の普及促進」

事業番号	事業名	事業概要	平成28年度の実施状況	平成29年度の取組予定	数値目標	数値目標達成状況及び現状分析、今後の課題	他の分野別計画との関連性	所管課
115	スポーツ施設ユニバーサルデザイン化推進事業（旧：体育施設バリアフリー化推進事業）	子供から高齢者まで、障害のある人もない人も、あらゆる世代の誰もが気軽に安全安心にスポーツ施設を利用できるよう、既設トイレの洋式化や手すりの設置など、施設のユニバーサルデザイン化に計画的に取り組めます。	本城陸上競技場の正面入口を、誰でも入りやすいよう自動扉化し、施設の利便性を向上させました。	本城陸上競技場に多目的トイレを設置し、施設の利便性を向上させる。	---	スポーツ施設は老朽化した施設が多いことやH28.4に障害者差別解消法が施行されることから、今後とも引き続き利用者のニーズにあった設備の改修を図っていく必要があります。	北九州市健康づくり推進プラン 第四次北九州高齢者支援計画	市民文化スポーツ局 スポーツ振興課
117	【平成25年度】JR既存駅のバリア解消促進等事業 【平成26年度～】JR安部山公園駅に対する昇降装置整備支援事業	バリアフリー新法の基本方針改正による新たな目標に基づき、1日当たり3,000人以上が利用している既存駅を対象に、平成32年度までにエレベータ設置によるバリアフリー化整備を促進します。	北九州市、JR九州、国土交通省北九州国道事務所の3者の協議が整い、計画通り平成28年度現地着手となり、JR九州は北側エレベーターの整備を行い、平成29年3月18日に供用を開始しました。このエレベーター整備を行うJR九州に対して、北九州市と国が1/3ずつ補助金を交付しました。	平成29年度のバリアフリー化整備完了を目指し、JR九州は駅の増築と合わせて南側エレベーターや多目的トイレ等の整備を行います。またこの工事についても、JR九州に対して、北九州市と国が1/3ずつ補助金を交付します。	---	施工箇所は非常に狭隘であるなど施工条件が厳しいことから、詳細な施工計画、施工スケジュールの調整が不可欠となります。		建築都市局 都市交通政策課
118	安全・安心対策緊急総合支援事業（バリアフリー化）（市街地整備事業）	子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが安全に安心して使用できる公園を目指して、段差の解消や階段への手すりの設置等のバリアフリー化を行い、施設利用の安全性及び利便性の向上を図ります。	バリアフリー化実施 4公園	バリアフリー化実施 3公園	---	市民の意見を反映できるよう、また、高齢化が進んでいくことが考えられる市の実情に対応できるよう計画的にバリアフリー化を検討する必要があります。		建設局 みどり・公演整備課
145	障害者自動車運転免許取得助成事業	満18歳以上の ・身体障害者手帳（4級以上）、 ・療育手帳、 ・精神障害者保健福祉手帳 のいずれかを所有する人を対象に、自動車教習所で教習に要した経費の2/3（上限10万円）を助成します。	助成件数 23件 (H29.3月末現在)	広報活動を通じて、制度の周知を図り、助成件数の増加に務めます。	助成件数 平成26年度 21件 平成29年度 24件	年度により助成件数に変動がありますが、助成件数は概ね見込みどおりで推移しています。		保健福祉局 障害者支援課

北九州市障害者支援計画進捗状況管理表

基本目標 Ⅲ 人権の尊重と共生社会の推進

参考資料 1

分野7. 生活環境の整備（障害に配慮したまちづくり）

(4) 「障害者に配慮したまちづくりの総合的な推進」

事業番号	事業名	事業概要	平成28年度の実施状況	平成29年度の取組予定	数値目標	数値目標達成状況及び現状分析、今後の課題	他の分野別計画との関連性	所管課
116	バリアフリーのまちづくり	高齢者や障害者など、誰もが安全で快適に通行できるよう、道路のバリアフリー化を行い、バリアフリーのまちづくりを進めます。 具体的には、歩道の新設や拡幅、段差解消、視覚障害者誘導用ブロックの設置などのバリアフリー化を行います。	モノレール競馬場停留場 周辺道路の整備 (市道 日の出町2号線) 整備延長 L=150m 主要駅周辺のバリアフリー化率 平成28年度末 90%	主要駅や公共施設等の周辺道路の整備にあたり、バリアフリー化に向けた設計や工事等を進めます。 具体的には、JR朽網駅やモノレール競馬場前駅周辺の道路整備等において、歩道の新設や段差解消等のバリアフリー化に向けた取り組みを行います。 主要駅周辺のバリアフリー化率 平成29年度末 91%	主要駅周辺のバリアフリー化率 平成30年度 95%	主要駅周辺のバリアフリー化率 平成28年度末 90% 平成27年11月に改訂した「北九州市道路整備中長期計画」において、進捗状況等を鑑み、事業目標の見直しを行い、現在、主要駅周辺のバリアフリー化率：平成32年度100%を目標とし、継続して取り組んでいます。 【課題】 バリアフリーのハード整備とあわせて、今後はバリアフリーの取り組みの周知など、ソフト的な施策の充実を図ることが重要。	「元気発信！子どもプラン」	建設局 道路計画課
120	ボランティア活動参加促進事業	障害者自らが、まちの点検活動や啓発事業を通して、社会の構成員としてボランティアに参加する機会を提供することにより、社会参加を促進します。	定例会のほか、市内各所をバリアフリーの視点から点検を行うなどの活動を行っています。 地域環境整備活動（まちのバリアフリー点検など） 回数 8回 参加者数 延べ57名 障害福祉に関する啓発事業への参加 回数 13回 参加者数 延べ20名 障害福祉に関するボランティアへの参加 回数 112回 参加者数 延べ118名	例年、着実な活動を行っており、平成29年度も同様の取り組みを継続的に進めます。	---	これまでの着実な活動成果とノウハウを失わないよう、継続して実施する必要があります。	元気発信！北九州プラン(Ⅱ-2-(2)-②)	保健福祉局 障害福祉企画課